

「災害の対応について」に関するメールは、このたびの熊本県熊本地方を震源とする地震の被害の甚大さを考慮し、地域を限定せずにメールマガジンの登録を頂いている会員の皆様全てに配信いたします。

ご了承をお願い申し上げます。

★ケアマネジャーによる今後の支援の方法等について、本日、熊本県庁において打合せを行っています。熊本県支部（熊本県介護支援専門員協会）の加來留理事長（当協会災害対策特別委員長）と土屋政伸会長、当協会の柴口里則副会長と原田重樹副会長が熊本県庁を訪問しました。

★県庁には厚生労働省から担当幹部が派遣されていますので、予め調整をしたうえで、厚生労働省担当者、熊本県庁長寿社会局認知症対策・地域ケア推進課の方々と、支援の流れを打合せしました。

★このあと、加來委員長の職場（避難所）に戻り、支援スキームの詳細を詰め、当協会災害対策本部に持ち帰ります。加來委員長も土屋会長もそれぞれの地元が避難勧告地域となっている中で動いている状況です。

★避難された方々は、避難所生活を続ける中で状況が変化していきます。身近な人の消息、ライフラインの途絶、食料や生活品の不足、気温の変化など、ストレスや不安は計り知れないほど大きいものがあります。その変化に対応できるよう、利用者さんには出来る限りの継続的なモニタリングが必要となります。

★過去の災害では災害直後だけではなく、中長期にわたる「動くに動けない」状態で、生活機能低下の悪循環による廃用症候群（いわゆる生活不活発病）の発症が多発しています。長時間同じ姿勢を続けたり、トイレの回数を控えるために水分補給を控えたりしていると、エコノミークラス症候群を引き起こすことも考えられます。命に関わることですので、足首を回す、ふくらはぎを揉む、適度に水分を補給するなど十分注意して下さい。車中泊の場合も要注意です。

★一見、元気にみえる高齢者でも地震後は近くしか歩いていない、外出が少ないなど、病気や外傷とは関係なしに環境の変化だけでも発症します。

★避難所等で昼間横になっている生活が続くと、立ちくらみ等の起立性低血圧が起りやすくなります。災害による疲れだろうと考え、さらに横にな

ることによって生活不活発病を進行させることもありますので、今後に向けてご留意願います。

★当協会は、被災地の会員の皆様および要介護者の皆様に関する状況を収集しております。大変な状況の中、恐縮ですが、利用者の生活を継続する上で何が不足しているのか、業務を進める上で妨げになること等があれば、情報をお知らせ下さい（e-mail [info@jcma.or.jp](mailto:info@jcma.or.jp)）。

活動状況もお知らせいただければと思います。

★引き続き、九州各県や山口県を中心とした支部、厚生労働省と情報交換を行います。現段階では、熊本県以外、サービス提供に大きな影響は出ていないという情報です。